SAGA UNIVERSITY Magazine

佐賀大学広報誌 かちがらす

特集

「東日本大震災」佐賀大学の支援

活躍する佐大ＯＢ

東日本大震災における初の災害時複数ヘリ統制ミッションを指揮

日本医科大学千葉北総病院救命救急センター

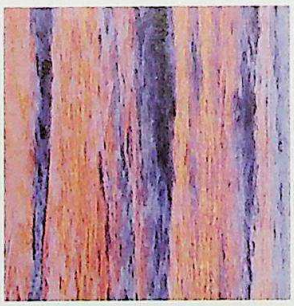
本村友一さん

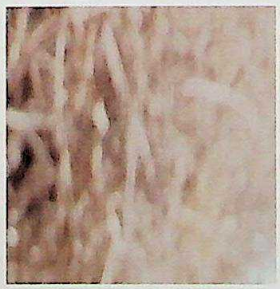
トピックス

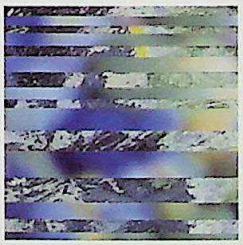
快挙！２度目の日展特選を受賞

「かささぎ奨学金」創設

etc







第23号　2011

「東日本大震災」佐賀大学の支援

平成23年3月11日、東北・関東地方を襲った大地震と津波は未曾有の大災害をもたらしました。今回佐賀大学が行いました支援活動の一つである、初の出動となったDMATと、仮設住宅に住まわれている高齢者の方への支援を紹介します。

佐賀大学初のDMAT派遣について

自衛隊ヘリへ乗り込む

阪本雄一郎（さかもと ゆういちろう）
医学部救急医学講座教授
医学部附属病院 救命救急センター長

「災害は忘れたころにやってくる」と言われておりましたが、今や「災害は忘れないうちにやってくる」かのようです。大規模災害に対する地域ごとの対策が重要であることは言うまでもありませんが、一方で被災された方々やそのご家族の心中は計りしれない状況かと存じます。今年の大震災や台風等の災害でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、避難生活を強いられている方々に、心よりお見舞い申し上げます。

初のDMAT出動　今回の未曾有の大震災におきましては我々佐賀大学のDMATチームも宮城県に派遣され活動しました。震災の翌日、深夜に出動要請が佐賀県庁から有りました。直ちに病院へ参集し、機材を救急車に詰め込んで、福岡空港を目指しました。空港には既に九州各県からいくつかの隊が参集していました。福岡空港から、自衛隊機に搭乗し、百里基地を経由して、我々に与えられた活動場である霞の目駐屯地に向かいました。

DMATの活動　宮城県上空からの様子はまさしく言葉が出ないといった様子であり、実際にこの場で生活されていた方々のご様子を察するに極めて心が痛む状況でした。また、この駐屯地からも気仙沼の被災地から上がっている黒煙が見られ、我々医師が現場で出来る活動の限界を痛感しました。霞の目駐屯地において与えられた我々の仕事は、多くのヘリコプターで救助されてきた方々をトリアージすることでした。つまり救助された方々の行き先が避難所でいいのか病院へ搬送する必要があるのかを判断する仕事です。中には津波で流されて負傷された方もいらっしゃいました。

今後の課題　今回の佐賀大学として初めてのDMAT派遣に関しましては、我々なりに仕事はして戻れたと思いますが、情報の管理や現地での統括に関しては、九州および日本のDMATの問題点も有ったのではないかと感じています。まず我々が、佐賀県内において、災害時の情報や統括の体制を発展させ、他地域のモデルとなるような形にすべきだと感じました。そのためには、結束や一岩となることが重要だと思います。

自衛隊ヘリ内

福岡空港集合時の様子

仮設住宅の浴室でのまたぎ越しを安全にする台の製作支援

名取市に一番最初に設置された仮設住宅(箱崎桜団地)に住まわれている高齢者の浴槽のまたぎ越しを安全にする台の製作支援を行いました。この活動は、筆者が2010年度まで理事長を務めていた日本リハビリテーション工学協会の支援活動の一つとして、4月に東日本大震災復興支援に関する専門委員会を設置し、5月に宮城県リハビリテーション支援センターよりリハビリテーション工学分野での支援要請があって実行したものです。

浴室の現状　現在の仮設住宅の浴室は、立ちまたぎで浴槽へ移動する高齢者にとって、浴槽の高さが高過ぎて、入浴の際に転倒の危険性がありました。

支援体制　日本リハ工学協会会員14名、大学生41名の計51名で行いました(図1)。

支援日程　全体の日程は2011年8月4日～13日で、筆者は9日～12日で行いました。

台の材料や工作工具　材料の提供を頂いた矢崎化工㈱のイレクターを使って、個々に適した高さや大きさの台を全員で製作しました(図2)。

支援の内容　浴槽の外側や浴槽の中に台を設置して、浴槽の立ちまたぎを安全にできる様にしました。また、浴槽の中に立ち座りし易い高さの台を設置し、シャワーを座ってかかれる様にするなどの支援を行いました。(図3)は筆者が台に乗せる板を加工している状況。(図4)は完成し納品前の台、(図5)は仮設住宅の玄関に設置した台です。

作製した台の試用状況　作製した台で浴槽へ入る試用状況を記録しました(図6)。また、実際の浴室で試している状況を(図7)に示しています。支援の結果、入浴動作の安全性や自立度が高まり、大変喜んで頂きました。

今後の課題

a　仮設住宅に入居する方の中には、高齢者や身体に障害のある方もいらっしゃるので、住宅の出入口や浴室、トイレの出入口の段差を無くすことが大切です。

b　浴槽へ入るとき座位またぎができる様に、浴槽の高さは45㎝程度で、浴槽の横に浴槽と同じ高さの洗い台を準備することが望ましい。

c　歩行できない身体機能の方にとっては、災害時の避難時だけでなく、日常の生活の中での自立移動や自立移乗などを行っておくことの重要性を感じました。また、誰しも他人事ではないことなども含めて、多くの方へ伝えて行きたいと考えています。

図1. 参加した学生やボランティアの作業状況

図2. 矢崎化工のイレクター

図3. 名取市箱崎桜団地の仮設住宅の浴室台の製作

図4. 作製した台

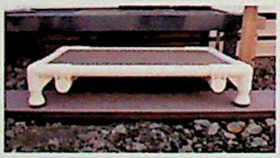


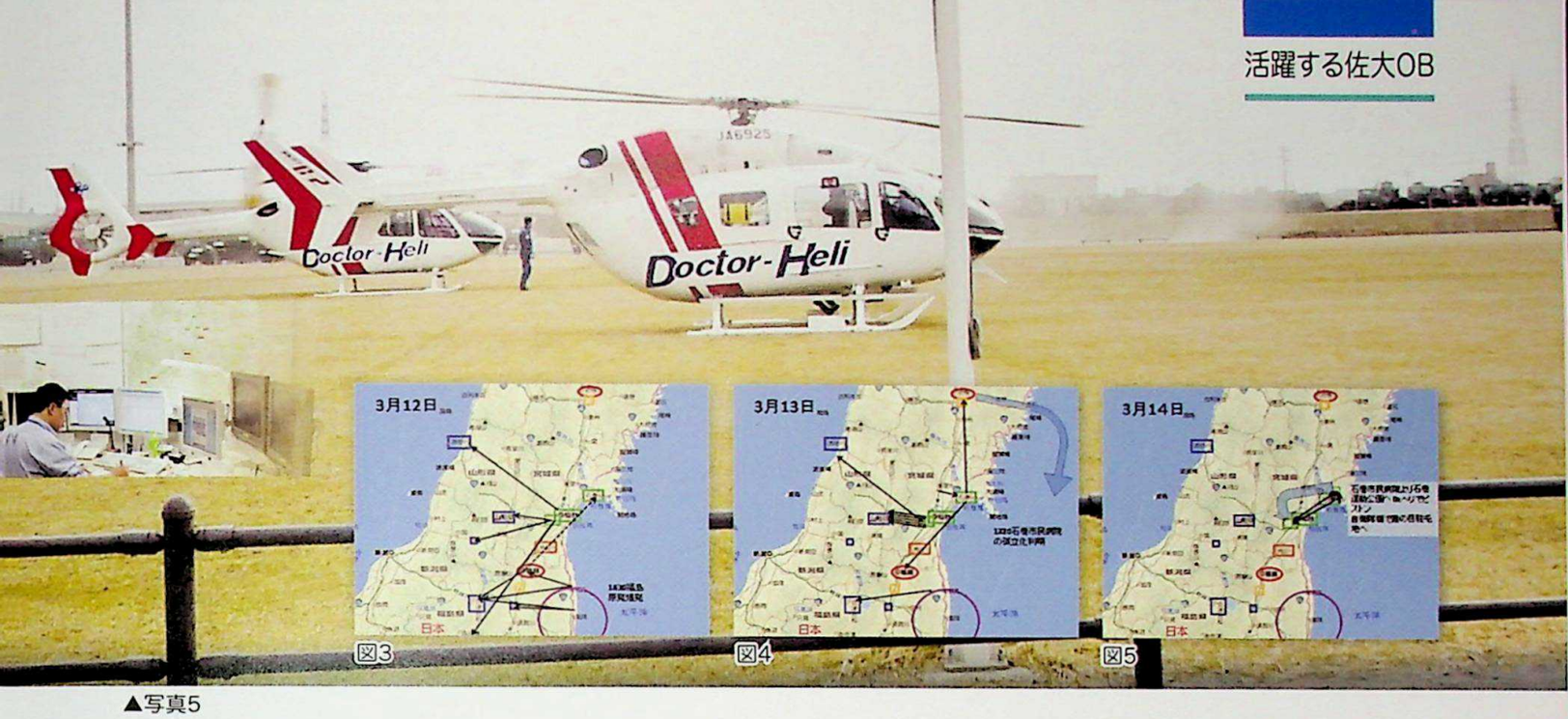
図5. 段差を半分にする台の製作

図6. 作製した台の試用状況

図7. 座ってシャワーをかかる

松尾　清美
医学部附属地域医療
科学教育研究センター准教授

佐賀大学では受験生を含む被災された方への支援を行っています。詳細につきましては佐賀大学ホームページ(URL: http://www.saga-u.ac.jp/)をご覧ください。



▲写真5

複数ドクターヘリ統制

福島県立医大ドクターヘリ運航室に構えた統制本部では、地方地理・災害情報収集、医療ニーズの把握に努め、受入先医療機関情報・参集予定ドクターヘリ把握、他DMAT、CS(communication specialist)の協力を得て本部運営に必要な人員確保とteam building、さらに情報ツールの準備を行いました。同本部では、同時に6~8機のドクターヘリ統制を行いました(図1)。花巻空港へ参集したヘリと合わせて全国から合計15機が本震災急性期対応に従事しました(図2)。翌12日は医療施設間搬送11件(図3)。衛星電話さえ使用できない極めて情報管理の困難な中、数少ない情報で統制を行いました。13日は、医療施設間搬送9件と現場救急要請1件(図4)。この日12時20分ヘリ活動にて石巻市立病院の孤立化が判明。1階は津波に流され、陸路が遮断されすでに入院患者5人がライフライン途絶のため死亡。同日の緊急搬送が不可避な患者6人をドクターヘリ及び自衛隊機を使用しSCU(staging care unit)へ搬出し、国内初の災害時広域搬送を行いました。14日は全てのドクターヘリを同院の患者及び職員搬出に投入しました(図5)。自衛隊機は病院周辺の狭い場所へ着陸が不可能で、ドクターヘリを使用し同院から運動公園へ患者のピストン搬送(図6,7)し次いで自衛隊機で駐屯地へ空路搬送(写真5)を行いました。15日以降は悪天候にて群は撤収。計106人の対応を行いました(図8)。

今後の課題

本震災に於いて全国からドクターヘリが参集し急性期に大いに機動力と有用性を発揮しました。ヘリはDMATが独自に迅速に、チーム・資器材投入、傷病者搬送、偵察等に活用できる有力な独自の武器です。一方、独自の確実な通信手段が必要で、自衛隊、警察、消防等他機関のヘリと安全且つ効率的な協同運用システム構築の必要性も痛感しました。当然、佐賀及び九州における災害時もドクターヘリとドクターカーによる医師派遣システムの有用性は計り知れません。有事の際の有用性は、通常救急医療システムの成熟上に成り立つもので、救急医療従事者のみならず、医療機関全体、地域住民、消防、警察等幅広い理解と協力が必須です。

図6

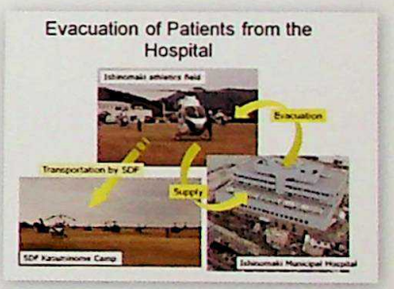


図7

(単位:人)	通常救急	医療機関間	SCUへ	避難	計
12日	0	11	0	0	11
13日	1	9	1	0	11
14日	0	0	4	80	84
15日	—	—	—	—	—
計	1	20	5	80	106

図8

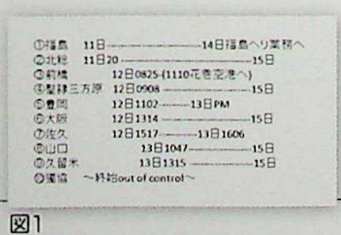


図1

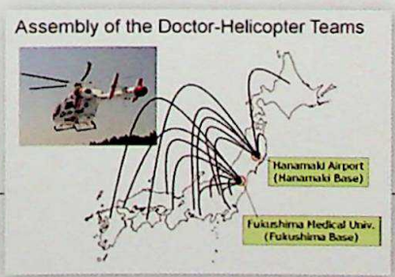


図2

東日本大震災における初の災害時複数ヘリ統制ミッションを指揮

日本医科大学千葉北総病院
救命救急センター
本村（もとむら）　友一（ともかず）さん
平成15年3月医学部医学科卒業

私は平成15年佐賀大学医学部を卒業しました。勉学はそこそこに野球部で培った集中力、チームワーク、チーム戦略、多くの経験が救急医療をライフワークとする自身の血肉です。小学校修学旅行は雲仙普賢岳噴火、中学校修学旅行は南九州平成3年(米国多発同時テロのちょうど10年前の1991年9月11日)の大型台風17号・19号被害に見舞われました。高校修学旅行の朝は阪神淡路大震災で、数時間発生が異なれば新幹線ごと被災していました。佐賀大学時代、卒業旅行でアメリカに行くと間もなく2001年9月11日米国同時多発テロ発生(そしてそのちょうど10年後の今日2011年9月11日新幹線で本原稿執筆中!)。この縁あってか救急医療を志すと間もなく災害医療に取り組むようになりました。日本DMAT(disaster medical assistance team：災害時派遣医療チーム)は、阪神淡路大震災でPTD※1(preventable trauma death; 防ぎ得た外傷死)が約500も発生したため厚生労働省と医療者で構築したシステムです。私はDMAT隊員資格修得後、複数DMATを統括指揮する統括DMATに加え、インストラクター資格を取得し微力ながら災害医療システム構築へ尽力しています。平成21年8月より、現職の日本医大千葉北総病院救命救急センターへ異動しドクターヘリ・ラピッドカーを活用した病院前診療、複数科の迅速性と高い能力が必要不可欠な外傷診療、外傷予防学を目指した交通事故調査などとともに災害医療活動を継続しています。

東日本大震災へ出動

さて今回の東日本大震災では本邦初の災害時複数ドクターヘリ協同ミッション及び広域搬送※2が行われました。佐賀大学チームを含む全国DMAT340チームが活動し被災地内外で献身的な急性期災害医療活動を展開。その迅速性とその活動の重要性が証明されました。

発災日の活動

3月11日14時46分発災時、私は交通外傷症例の対応中でした。臨時ヘリポートの河川敷は波打ち、複数個所から煙の立ち昇る中、傷病者と病院へ帰還しました。帰還後、被災地情報を収集し県と調整を経て参集拠点病院である福島県立医大への出動を決定しました。日中ミッション後18時35分離陸、19時55分福島県立医科大学に到着、私はドクターヘリ統括者を拝命し統制本部を立ち上げました。

※1：災害環境下、通常救急医療と同様の医療行為が提供できれば回避できた死亡
※2：今回の様な、被災地域の医療システムが破綻するような大災害時に傷病者を被災地外地域へ自衛隊固定翼機等で搬送し通常診療を提供するシステム

佐賀学のススメ

地域学歴史文化研究センターの設立

平成18年（2006）に、地域住民と大学と連携して地域学を創出するという目的で、地域学歴史文化研究センターが創設されました。センターは考古学、地域史・史料学、国文・文献学、洋学・思想史研究4部門からなり、歴史文化を軸とする地域研究や資料調査研究、地域自治体との文化交流事業をすすめています。6回目になる小城市との交流事業では「小城の医学と地域医療」の特別展（10月15日～11月27日まで）を実施していました。

蘭学の探求

私の研究は、西洋の学問である洋学（オランダを通じての学問なので蘭学ともいう）が、どのように地域に受容され、影響を与えたかを明らかにするものです。佐賀藩は長崎警備を担当していたので、どの藩よりも早く、西洋の学術・文物を輸入することができました。

そのため、幕末期には佐賀藩は、藩主鍋島直正の主導のもとで我が国随一の科学技術立国となり、薩摩藩主島津斉彬（なりあきら）が佐賀藩では西洋と同じくらい科学技術が優れている、佐賀藩に負けるなと、家臣らを叱咤激励したほどです。このように佐賀藩が科学技術の先進導入藩であることはよく知られているのですが、じつは、医学研究はあまり進展していませんでした。

佐賀藩は医学でも先進藩

佐賀藩医学で特筆されるのが、我が国最初の種痘の導入です。種痘とは天然痘の予防のためにイギリスのジェンナーが発明した牛痘ウイルスを人間に植え付けて免疫を得る方法です。嘉永2年（1849）に佐賀藩医が種痘の接種に成功し、それが日本全国に広まり、多くの子供たちを救いました。佐賀藩は引痘方を設置して、領内の子供達に藩の費用で接種する仕組みを、日本で最初に作り上げました。さらに嘉永4年（1851）年からは、技量の優れた医師にだけ、開業免許を与えるという医業免札制度、いわば医師の国家試験制度を始めました。安政5年（1858）には、医学校好生館を設立し、西洋医学での医学教育を推進し、明治になって近代医学のもとを築きました。このように佐賀藩は医学の分野でも、我が国で最も先進的な藩でした。

2011年／花乱社

研究すればするほど、佐賀の先進性や魅力を再発見できます。今年、多くの仲間とプロジェクトの研究成果の一つとして『佐賀学』を刊行できました。これからも、日々、地域学の創出にむけて、そのような「佐賀」の魅力を発見し、発信していきます。

地域学歴史文化研究センタースタッフ

青木（あおき） 歳幸（としゆき）
地域学歴史文化研究センター教授

健康行動学で生活習慣病の予備軍を増やさない

～CPAスマートライフスタイルの提案～

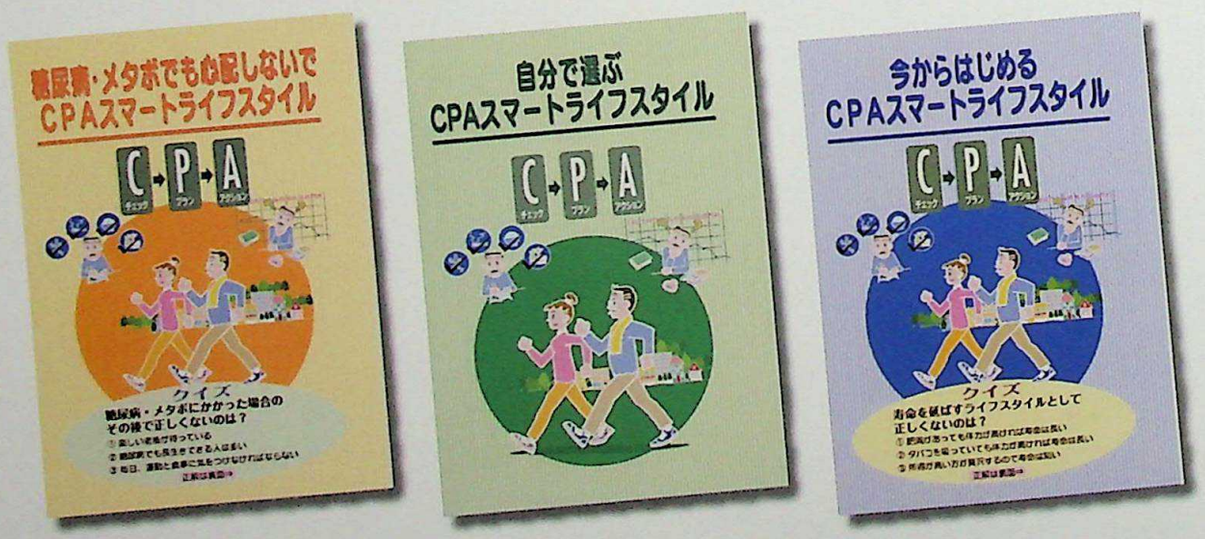
山津（やまつ）　幸司（こうじ）
文化教育学部
健康スポーツ科学講座准教授

わが国ではメタボリックシンドロームや糖尿病などの生活習慣病、およびそれらの予備軍が急速に増えています。その影響を受けて、国民医療費も約36兆円（2009年度、厚生労働省）に達し今後も増加の見込みです。糖尿病に要する医療費も約1.2兆円となり、生活習慣病の増加は社会保障制度の持続可能性を揺るがしかねない重大な課題となっています。

その解決策の一つとして、平成21年度より厚生労働科学研究費を受け我々が進めてきたのが、生活習慣改善プログラム『CPAスマートライフスタイル』の開発研究です。その研究目標は『メタボや2型糖尿病の予備軍を増加させない』ことです。CPAとは『チェック（Check）→プラン（Plan）→アクション（Action）』の頭文字で、生活習慣変容に最も効果的とされる行動療法（心理療法のひとつ）の治療構造（問題行動の特定→行動アセスメント→技法の適用→効果の維持）を言い表した我々の造語です。現時点で開発が完了したのは、3種類の印刷教材とモバイル版健康支援システムです。プログラムの参加者は自分の健康状態や意欲にあった印刷教材を受け取り、生活習慣の自己評価（チェック）、行動の改善目標（例：1日7000歩以上）の選択（プラン）、目標達成度の記録（アクション）を行います。目標達成度の記録をモバイル版健康支援システムで行うと、専門家からの助言を定期的に受けることができるというものです。

本プログラムの特徴は、印刷教材を用いたセルフマネジメント型という点です。専門家の緩やかなサポートを受けながら自分のペースで進められるためセルフコントロール能力が高まり、CPAスマートライフスタイルのコンセプト『小さくても確実に変化（スモールチェンジ）させ続ける』の長期継続が可能となります。また、携帯電話などの情報通信技術を活用することにより、時間や場所の制約が減るなど利便性の向上も期待できます。

今後の課題は、プログラムの参加者および提供者にとってより使いやすくすることです。使いやすさの向上は、すでに確認してきた利用者での歩数増加や体重減少の効果を高めるとともに、提供者（専門家）が関わる時間が少なくても同じ効果を生み出せることにつながります。また、生活習慣病保有者の増加が今後予想されるアジア圏への展開を見据えて、韓国版や中国版の開発を計画しています。



「CPA印刷教材」…この中から自分の状態に合ったものを選ぶ。

医学部附属病院 開院30周年 記念式典等を挙行

10月22日(土)、佐賀市のホテルで佐賀大学医学部附属病院の開院30周年記念事業が開催されました。

昭和56年10月に県内唯一の大学病院「佐賀医科大学医学部附属病院」が、地域医療・救急医療の拠点として開院、旧佐賀大学との統合後、「佐賀大学医学部附属病院」となり開院30周年を迎えました。

記念式典では、宮崎耕治理事・病院長が「これまでご支援、ご協力いただいた関係者の皆様へ感謝と敬意を表したい」と挨拶、「地域医療への貢献と救急医療の整備」を目指し、建学の精神を継承しながら、県民が誇れる医療を佐賀県で受けることができるよう前進して参りたい」と述べました。また、佐賀医科大学医学部附属病院創設時から顧問として助言をいただいている日野原重明聖路加国際病院理事長・名誉院長や常盤豊文部科学省大臣官房審議官、平子哲夫佐賀県健康福祉本部長、池田秀夫佐賀県医師会会長から祝辞を賜りました。

記念講演会では、佐賀市出身の元内閣官房副長官　古川貞二郎氏による「これからの大学病院のあり方を考える」と題した講演が行われ、佐賀大学医学部附属病院の役割と期待について講演されました。

祝賀会では、佛淵孝夫学長の挨拶に引き続き、上村春甫佐賀市医師会会長、横尾俊彦佐賀県市長会会長から祝辞をいただき、山口雅也元佐賀医科大学長の発声で乾杯。会場には病院再整備計画基本設計のジオラマが展示され、また歓談中には、本院のこれまでの活動内容等の記録と今後の構想を示すために記念に製作したDVDが放映され、出席者は熱心に見入っていました。最後は杉森甫元佐賀医科大学長の万歳三唱で大盛況のうちに閉会しました。

記念講演をされる
古川貞二郎氏

祝辞を述べられる
日野原重明聖路加
国際病院理事長・名誉院長

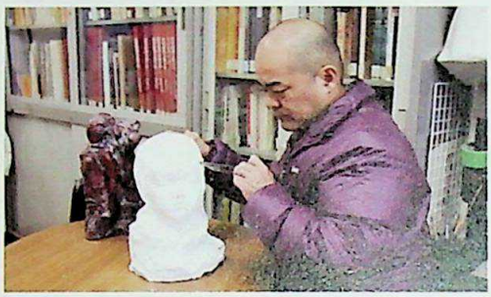
式典の様子(挨拶をする宮崎耕治理事・病院長)

病院再整備計画
基本設計のジオラマ

第41回日展特選『Spiral』

第43回日展特選『束』

学生指導の様子



制作風景

徳安 和博（とくやす かずひろ）
文化教育学部
美術・工芸講座准教授

快挙！ 2度目の日展特選を受賞

この度、第42回日展第3科（彫刻）におきまして、二回目の特選を受賞させて頂いた事に、まず、関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

彫刻作品の制作にあたって私がいつも大切にしている事は、作家自身のメッセージを鑑賞者に読み取らせる仕掛けよりも、なんとなく心地よい感じがしたり、触ってみたくなるような仕掛けを丁寧に作ることです。

一回目の特選を頂いた『Spiral』は、題名のとおり螺旋構造をわかりやすく見える状態にし、人体を自然な状態で捻れるだけ捻ったらどうなるか、という実験的な作品でした。螺旋構造を意識的に人体の形に取り込む事で、粘土のかたまりに生物らしい自然さや、身動きするかのような錯覚を作り出す事ができます。『Spiral』は結果として、捻れたことによる効果は表現できたと思いますが、これは前者の仕掛けに近い要素のものになってしまったので、後者の仕掛けに相当する彫刻の本質としての量感表現が薄まってしまった事が反省点として残りました。

その反省を踏まえて、二回目の特選の『束』では、彫刻表現の原点である量感表現に真正面から取り組みました。つまり、なんとなく心地よい感じがしたり、触ってみたくなるような仕掛け作りに没頭したわけです。結果として、私が狙って行ったその量感表現はこれまでで一番よくできたと思っていますし、日本芸術院会員の先生方を始め、美術評論家の方からもお褒めの言葉をいただくことができました。そして評価をいただいた点が、私が狙った量感表現という仕掛けに対してであったので、とても嬉しく感じています。

しかし、量感が豊かであることはそもそも彫刻作品の大前提です。ですから、今回をもってようやく彫刻制作のスタートラインに立てた、というだけの事なのかもしれません。

今回は偶然にもこのような栄誉を授かることができました。偶然もじっとしている間は近づいてこないので、これまで迷い、悩みながらでも走ってこれてよかったと思っています。

スタート地点をみつけたとはいえ、さてこれからどの方向に走っていくべきか今はまだわかりません。しかしこれからも素晴らしい偶然を自分の方にたぐり寄せる為には、直感を信じつつ、息切れしない速さで走り続けなければならないと強く思っています。

「かささぎ奨学金」創設

―愛校心あふれる佐賀大学生の育成のために―

学生代表で挨拶を述べる鳥崎哲平さん（医学部医学科６年）

佐賀大学では、今年度から成績優秀な学生の学習意欲を高め、愛校心溢れる優れた人材を育成することを目的として「かささぎ奨学金」を新設しました。

「かささぎ奨学金」は佐賀大学独自の奨学金であり、入学を希望する人向けの「予約型奨学金」と現在佐賀大学に在籍している学生を対象とした「在学生奨学金」があります。

国立大学法人では九州初で、全国的にも珍しい制度です。

11月9日(水)に平成23年度かささぎ奨学金(在学生)の授与式が佐賀大学大学会館において実施され、支給対象の学生47人に授与されました。

授与式では、佛淵孝夫学長が「奨学金を受けられることを誇りとし、学生のリーダーとなって欲しい」と激励しました。学生代表の医学部医学科6年の鳥崎哲平さんは「地域社会に貢献できるよう努力を重ねます」と挨拶しました。

「かささぎ奨学金」とは…

予約型奨学金（入学希望者向け）について

入学を希望する優秀な学生に対し、
入学前から奨学金支給を約束する。

申請資格

- 成績・人物ともに優秀で、本学に強く入学を希望する者
- 推薦入試・一般入試（前期日程）受験者

支給額・給付期間

- 年額30万円×4年間（医学部医学科は6年間）

採用予定者数

- 12名程度

選考方法について

- 申請者を対象に，入試成績について審査し決定
- 推薦入試…各学部の推薦入試の成績上位者
- 一般入試…各学部毎のセンター試験の成績優秀者

在学生奨学金について

本学学部に在学する優れた学生の学習意欲を高め、
愛校心あふれる優秀な人材を育成。

申請資格

- 成績優秀で学習意欲があり、留年・休学等をしていない

支給額

- 年額30万円

採用予定者数

- 大学全体で50名程度（1学年12名程度）

選考方法について

- 申請者を対象に、前年度までの総合GPAを審査し決定

記念撮影

車いすプロジェクト

皆さんは、国際協力と聞いて何を思い浮かべますか？また、それは、難しいことだと思いますか？私は、「国際協力」と聞いて、自分には難しいことのように感じていました。しかし、そうではないことを、NPO法人ヒーリングファミリー財団の車いすプロジェクトに参加して思いました。「車いすプロジェクト」とは、日本の使用されなくなった車いすを小学生と磨いて綺麗にし、タイに運ぶというものです。藤崎はH22年6月、河野はH23年6月のプロジェクトに参加しました。

藤崎　風起（ふじさき　ふうき）
文化教育学部学校教育課程
教育心理学選修4年

私が今回の経験を通して、一番学んだことは「次につなげることの大切さ」でした。一台一台の車椅子を子どもたちと一緒に丁寧に磨き、子どもたちからのメッセージを添えて、タイの方々に手渡しする。その活動を通して、自分も含め、とてもたくさんの子どもが少しでも国際協力に興味を持てたのではないかと思います。今回、私はとても些細な国際協力しかできませんでした。しかし、そんな些細なことでも次につなげることができ、国際協力の意識が子どもたちに芽生えたならうれしい限りです。

車いすを磨く小学生

車いすを運ぶ

地図で国の位置を確認

河野　明実（かわの　あけみ）
文化教育学部学校教育課程
障害児教育選修3年

引き取り手のない車いす

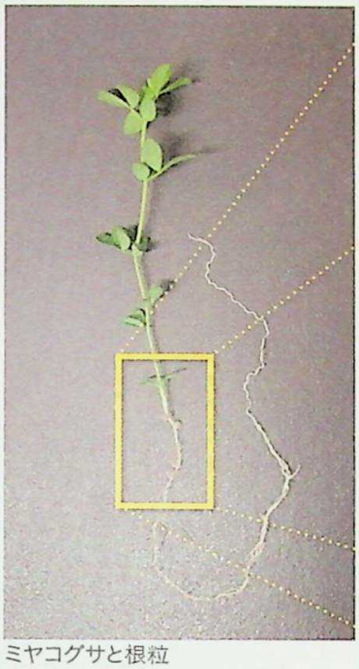
車いす寄付先にて

私が今回の経験を通して、一番学んだことは「相手のことを知りたいと思う気持ちの大切さ」でした。実際にタイに行って、引き取り手のない車いすが多く残されている現状をみました。本当に相手が必要としている車いすの型を知らずに送られてくることが原因のようです。本来の国際協力は、「知りたい」と思うことが大切だと思いました。行動に移すことは難しいと感じる人も多いことでしょう。しかし、「知りたい」と思い「知ろう」とすることは、誰にでもできることです。そのような思いを抱かせてくれました。

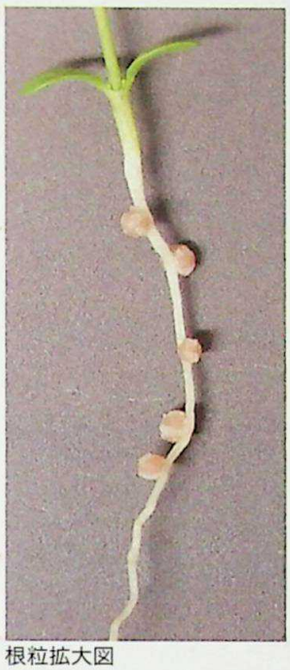
車いすプロジェクトは、小学生と協力して行うことで、私たちだけでなく子どもたちにも福祉や国際協力への興味を持たせ、「知りたい」と思ってもらうための取り組みです。私たちは、今後もこの活動への参加を続け、さらに多くのことを知り、また情報発信をし、次につなげていきたいと思っています。

植物微生物研究会「学生優秀発表賞」受賞

～マメ科作物の改良を目指して～



ミヤコグサと根粒



根粒拡大図

重山　珠紀
農学研究科修士2年

富永　晃好
鹿児島大学大学院
連合農学研究科博士2年

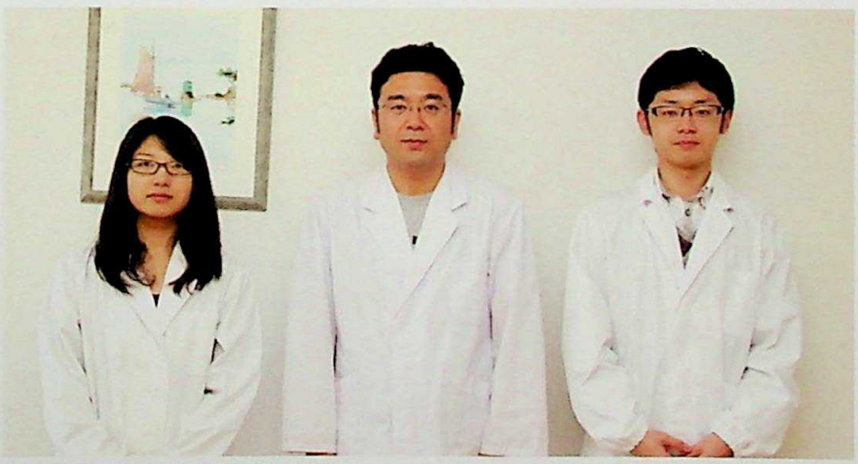
私達は、有馬進教授・鈴木章弘准教授の作物生態生理学研究室で、マメ科植物と根粒菌の共生関係について研究を行っています。この度、「第21回植物微生物研究交流会」における第1回「優秀学生発表賞」を受賞しました。

富永――私は、「ミヤコグサにおける共生窒素固定活性に関するQTL解析」という演題でポスター発表を行いました。ダイズ等のマメ科植物は、根粒菌と共生して、根にできた根粒というこぶのような器官から、窒素を供給されています。これを窒素固定というのですが、今回の研究では、この窒素固定能力を制御するDNA領域を探索し、マメ科モデル植物であるミヤコグサの収量増加に有用な遺伝子を見出しました。

私は現在、本学会の若手の会会長を務めており、若手研究者の皆さんの要望から「優秀学生発表賞」を学会本部に設立してもらうよう、立案・交渉に携わっていました。そのため、今回の受賞は驚いたと同時に光栄で、感慨深いものとなりました。また、修士2年生の重山さんも同時に受賞して、彼女の成長をとてもうれしく思いました。

重山――私も富永先輩と同様に、マメ科植物と根粒菌との共生関係について研究しています。特に私は、根粒形成に及ぼす光の影響について研究しており、今回は「根粒形成はJAシグナリングを介したR/FR比受容反応である」という演題で、根粒形成が光の質によっても制御されているということについてポスター発表を行いました。私は自分がまさかこのような賞をいただけるとは思ってもいなかったので、とても驚いたと同時にとても光栄に思いました。この賞を励みに、さらに研究に力を注いでいきたいと思います。

このように私達の研究室では基礎から応用まで幅広く研究を行っています。研究室のメンバーはみんな明るく、キャンプやBBQ等で息抜きもしながら楽しく頑張っています。これからもメリハリをつけて、より一層研究活動に励んでいきます。



指導教員の鈴木章弘准教授とともに

実験の様子

繋がりから変化を起こす

～Connecting the Dots～

前田 亮斗
経済学部経済システム課程4年

私は大学一年生のころから、社会人向けの勉強会やセミナーに単身参加していました。そのほとんどは福岡での開催であり、都会である東京や福岡と、佐賀のような地方都市の機会の格差を感じていました。また、就職活動の際にも、大都市と佐賀の格差を痛感していました。

私が就職活動を始める少し前から、twitterが流行り始め、それらを自治体の運営に取り入れた佐賀県武雄市の画期的な取り組みなどもあり、facebookも台頭してきました。就職活動においても、これらのいわゆるソーシャル・メディアを活用していたのですが、地方にいながら、多くの情報を収集できるようになりました。また、facebookは実名主義が原則ですので、様々なところで出会う社会人の人たちとも繋がりを継続させるよきツールとなりました。

facebookを活用し、社会人の方々と繋がる中で感じたのは、佐賀で勉強会やセミナーが開催されていないのではなく、その情報が伝わっていないということでした。実際にfacebookを使っていると、繋がりをもった社会人の方からたくさんの勉強会のお誘いを頂いたり、一緒にイベントを企画させていただいたりできるようになりました。先日も佐賀大学大学会館で「いいね！facebookがばいよかリアル交流会 秋の陣 in 佐賀大学」と称し、大学生と社会人の交流会を行いました。佐賀県の最高情報統括監（CIO）の森本登志男氏に記念講演をしていただき、その後、「facebookカフェ」での交流会を行いました。「facebookカフェ」とは、「テーマ別にマスターがいて、マスターに自分が気になるテーマを説明してもらう。時間を区切り別のマスターのところに行く・・」という交流の仕方です。今回は、①facebookのアカウントの取り方（初心者向け）、②facebookの楽しみ方、③facebookの「プロフィール写真を撮ろう」、④facebook活用編、⑤facebookでの注意点という５つのテーマで交流会を行いました。約１００人の参加者があり、交流会での出会いから学生と社会人による新たな動きも出てくるなど、大好評でした。

今後は、ソーシャル・メディアを活用しながら、社会人・市民の方々と連携し、地方ならでは、佐賀ならではの成長の機会を創出していきたいと考えています。また、就職活動においても「ソー活」という言葉ができるほど、ソーシャル・メディアの存在感はますます高まっています。ですから、リテラシーの向上という面でも貢献していきたいと思っています。

繋がること自体は手段であり、その中からいかに新しいことを創出できるかが大事だと考えています。ですから今後は、繋がりの中で点を線とし、大きなムーブメントにしてイノベーションを起こしたいと考えています。その結果として、佐賀の活性化や、佐賀大学のブランディングに貢献していければと思います。

佐賀県情報統括監 森本登志男氏の講演

交流会の様子

医学部女子剣道部（鍋島キャンパス）

会　計
溝内　絢子（みぞうち　あやこ）
医学部看護学科2年

私達は佐賀大学医学部女子剣道部です。現在、医学科3人、看護科3人、計6人が所属しています。私達の部活は「短期集中」そして何よりも「楽しむ」ことをモットーに活動しています。医学部の学生はとても忙しく、なかなか練習時間を十分に確保することができませんが、一人一人が限られた時間の中で集中し、実に密度の濃い練習を行っています。その成果もあって、代々私達剣道部は医科学生体育大会で上位入賞を果たしてきました。特に近年の活躍は目覚ましく、今年は西日本医科学生体育大会の団体部門で優勝、西日本コメディカル剣道大会で準優勝を果たすなど、実に勢いに乗っています。

また、イベントごとも大好きで、焼きそば会、たこ焼き会等その他主要な各飲み会において実に盛り上がります。大会の帰路に観光旅行や卒業旅行をするなど、皆楽しいことが大好きです。

今年は1人、そして来年は2人の先輩方が引退され、とても寂しくなりますが、これからも限られた時間を大切にし、最大限の力を発揮し続ける部活でありたいと思います。皆さん、応援よろしくお願いいたします。

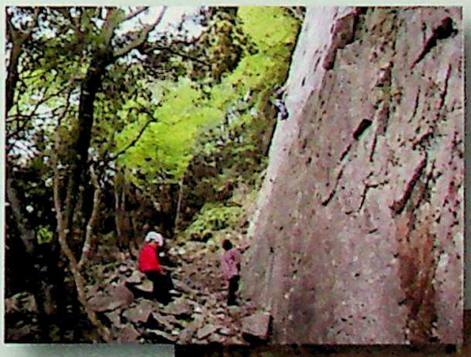
探検部（本庄キャンパス）

部　長
白濱　祥平（しらはま　しょうへい）
農学部応用生物科学科2年

こんにちは!探検部です。と言っても「探検」という言葉は漠然としすぎていて、実際は何をしているのか気になるところですよね？私達はラフティング、カヌー、クライミング、洞窟探検、サバイバル、沢登り、登山(縦走、アルパイン、雪山登山)など様々な活動を行っています。アウトドアスポーツを通して、普段の生活からは離れた世界で未知の物事や感動を追い求めているのです。

普段は週末に九州内の様々なフィールドで活動していますが、長期休暇の時は九州を飛び出し日本アルプスの山々や無人島などに行ったり、九州を歩いて縦断してみたり・・・と周りからは変に思われることも一生懸命に全力で取り組んでいます。

これらの活動は部員1人1人が計画を立て、主体性を持って行われています。部員の数だけ様々なフィールド・自分への挑戦があり、感動があるそんな部活です。



平成２５年１０月 佐賀大学は美術館を設置します。

佐賀大学は、平成25年10月1日に「旧佐賀大学」と「佐賀医科大学」の統合10周年を迎えるにあたり、教育・研究に有意義に活用するとともに、地域・社会貢献の一環として美術館を設置します。

代表的な美術・工芸作品及び佐賀大学にまつわる歴史的資料等を展示・公開し、現役学生及び教員の制作展や制作会場の公開を行うことは大学美術館ならではの特色となるものです。

皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

国立大学法人佐賀大学の役職員の報酬・給与等について（概要）

国立大学法人佐賀大学では、役員の報酬等及び職員の給与の水準を公表しております。公表内容につきましては、「佐賀大学ホームページ http://www.saga-u.ac.jp 」をご覧いただくか、または、人事課給与主担当で文書資料を用意しておりますので、ご連絡ください。(TEL 0952-28-8125)
なお、公表内容の概要は次のとおりです。

1. 国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準（年額）の比較指標（平成22年度）

職員の区分	対国家公務員※1	対他の国立大学法人等※2
事務・技術職員	80.4	94.0
医療職員（病院看護師）	95.9	96.7
教育職員（大学教員）	（参考） 90.2	92.9

※1　国家公務員の給与水準を100として算出
※2　すべての国立大学法人を一つの法人とみなした場合の給与水準を100として算出

2. 総人件費について

区　分	当年度（平成22年度）	前年度（平成21年度）	比較増△減		中期目標期間開始時（平成22年度）からの増△減	
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 10,703,031	千円 10,869,965	千円 △ 166,934	(%) (△1.5%)	千円 —	(%) —
退職手当支給額 (B)	千円 693,777	千円 1,111,161	千円 △ 417,384	(%) (△37.6%)	千円 —	(%) —
非常勤役職員等給与 (C)	千円 3,038,988	千円 2,807,940	千円 231,048	(%) (8.2%)	千円 —	(%) —
福利厚生費 (D)	千円 1,661,122	千円 1,552,564	千円 108,558	(%) (7.0%)	千円 —	(%) —
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 16,096,918	千円 16,341,630	千円 △ 244,712	(%) (△1.5%)	千円 —	(%) —

注：「非常勤役職員等給与」においては、寄附金、受託研究費その他競争的資金等により雇用される職員に係る費用及び人材派遣契約に係る費用等を含んでいるため、当法人の財務諸表附属明細書の「18 役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

編集後記

本号の特集として、東日本大震災に対する本学の支援のなかでも、医療関連を紹介させていただきました。「災害時医療チーム」（(DMAT)隊員として被災地の緊急医療に関わられた阪本先生、それと本学の卒業生でチームの統括官をされた本村医師、さらに仮設住宅の改善に取り組まれている松尾先生です。記事では、救援と様子と、それぞれの分野での課題も述べられています。この震災は、大学には、医療分野だけでなく、様々な学問分野に大きな難しい課題を突き付けています。今回の災害は、しばしば「人知を超えた」と形容されますが、むしろ今こそ、人類の叡智を結集すべきときです。本学もその点で少しでも貢献できればと思っています。

もう一つの話題は、本学が独自に設けた「かささぎ奨学金」です。これは本学の入学希望者で優秀な学生、それから在学生各学年の成績優秀者に年間30万円を支給するもので、全国的にもユニークです。優秀な学生獲得の切り札ですが、「教育先導大学」を標榜する本学であれば、必要な学生応援策と言えます。スタートしたばかりですので、記事をお読みいただき、是非「広報」をお願いします。

（広報室長　早瀬　博範）

佐賀大学メールマガジン登録受付中!!

毎号、受験生へ向けて、OB・在学生からの熱いメッセージ掲載。
登録は、→ http://www.saga-u.ac.jp/mailma/

National Institution for Academic Degrees and University Evaluation
NIAD-UE
UNIVERSITY ACCREDITED
Mar.2010

【表紙画制作者】文化教育学部教科教育 准教授 栗山裕至

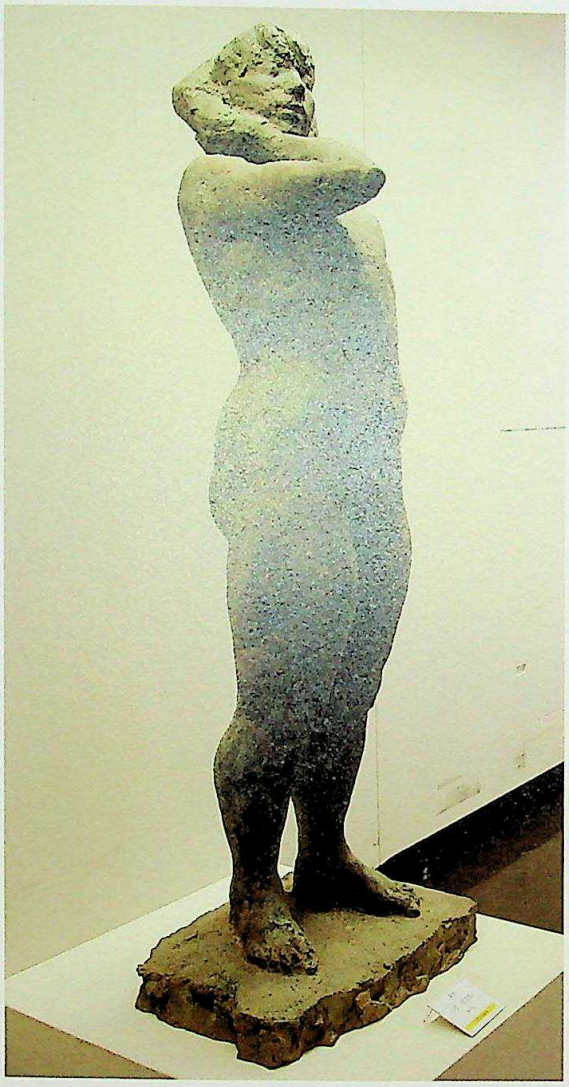
佐賀大学広報誌 かちがらす 第23号
■編集・発行／佐賀大学広報室 ■〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 TEL:0952 (28) 8153 FAX:0952 (28) 8921
■発行日／2011年12月 ■ホームページ／http://www.saga-u.ac.jp ■E-mail／sagakoho@mail.admin.saga-u.ac.jp

誌上ギャラリー

作品名「身幹（しんかん）」

（第61回佐賀県美術展にて佐賀県知事賞受賞）

川原（かわはら） 恵更佳（えりか）（教育学研究科教科教育専攻美術教育専修1年・彫塑専攻）



【作者プロフィール】

1988年　福岡県生まれ
2008年　第91回佐賀美術協会展　佐賀県知事賞
2009年　第59回佐賀県美術展　佐賀県教育委員会賞
2010年　第40回日彫展　入選
　　第93回佐賀美術協会展　鍋島報效会賞
2011年　第41回日彫展　入選
　　第61回佐賀県美術展　佐賀県知事賞

【作者コメント】

この作品は、大地にしっかりと根づいている木の幹のような、女性の力強さ、しなやかさを表現しました。

これからも「女性」をテーマにした作品を、様々なバリエーションで制作していきたいです。

本学の情報を携帯電話で見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。
携帯用 URL:http://daigakujc.jp/saga-u/

R270 VEGETABLE & LINK 日本紙業株式会社の大豆油インキを使用しています。